

第 22 回 運転・保守分科会議事録

1. 日 時：平成 23 年 2 月 16 日（水） 13：30～15：00

2. 場 所：（社）日本電気協会 4 階 A，B 会議室

3. 出席者：（敬称略，順不同）

出席委員：長崎分科会長（東京大学），横尾幹事（東京電力），有馬（日立 GE ニュクリア・エナジー），清水（東芝），鞍本（電源開発），近藤（関西電力），中田（北陸電力），幅野（東京電力），古田（電気事業連合会），中川（発電設備技術検査協会），滝田（原子力安全基盤機構），山口（大阪大学），坂元（日本原子力技術協会），奥野（原子力発電訓練センター），鈴木（BWR 運転訓練センター）（計 15 名）

代理出席：嶋原（三菱重工業 宮口代理），石坂（北海道電力 伊藤代理），米津（中国電力 小川代理），井川（中部電力 久野代理），名知（日本原子力発電 坂佐井），古館（東北電力 渡邊）（計 6 名）

欠席委員：中牟田（九州電力），山田（四国電力），小坂（原子力安全・保安院），忠内（原子力安全・保安院），渡辺（原子力安全基盤機構），杉山（北海道大学）（計 6 名）

オブザーバ：なし

事務局：高須，糸田川，日名田，大滝，井上（日本電気協会）（計 5 名）

4. 配付資料

- 資料 22-1 第 21 回運転・保守分科会 議事録（案）
- 資料 22-2 運転・保守分科会 委員名簿及び各検討会委員名簿（案）
- 資料 22-3-1 JEAC4804-201X「原子力発電所運転責任者の判定に係る規程」改定案に関する公衆審査意見対応表
- 資料 22-3-2 JEAC4804-201X「原子力発電所運転責任者の判定に係る規程」改定案
- 資料 22-3-3 JEAC4804 改訂版公衆審査でいただいた意見の対応について
- 資料 22-4-1 原子力発電所運転責任者実技試験用シミュレータに係る規程の制定について
- 資料 22-4-2 JEAC4XXX-201X「原子力発電所運転責任者実技試験用シミュレータに係る規程（案）」
- 資料 22-5 平成 23 年度活動計画（案）
- 資料 22-6 平成 23 年度 各分野の規格策定活動（案）
- 参考資料 1 第 39 回原子力規格委員会 議事録（案）

5. 議事

(1) 会議定足数の確認，他

事務局より代理出席者 6 名の紹介があり，長崎分科会長より承認された。本日の出席委員は，代理出席者を含めて 21 名で，委員総数 27 名に対し会議開催条件の「委員総数の 2/3(18 人)以上の出席」を満たしていることの報告があった。

(2) 運転・保守分科会委員変更の紹介および各検討会委員変更の審議

事務局より，資料 22-2 に基づき，運転・保守分科会委員 1 名の変更の紹介があった。

また，各検討会委員について，下記の通り委員変更が紹介され承認された。

【運転管理検討会】 1 人

・陸浦泰哉（中国電力） 酒井広隆（中国電力）

【緊急時（旧防災）対策指針検討会】 2人

- ・木庭樹美博（九州電力） 廣瀬圭二郎（九州電力）
- ・寺尾卓士（中国電力） 神田順次（中国電力）

【防火管理検討会】 1人

- ・寺尾卓士（中国電力） 米津晋太郎（中国電力）

(3) 前回分科会議事録（案）の承認

事務局より、資料 22-1 に基づき、前回議事録（案）の紹介があり、コメントはなく承認された。

(4) 第 39 回原子力規格委員会議事録（案）の紹介

事務局より、参考資料 1 に基づき、第 39 回原子力規格委員会議事録（案）のうち、主な議事および運転・保守分科会関連の事項が紹介された。

(5) 公衆審査における意見対応案の審議

1) JEAC4804 「原子力発電所運転管理責任者の判定に係る規程」改定案

運転管理検討会の幅野主査、坂元委員より、資料 22-3-1～22-3-3 に基づき、JEAC4804 「原子力発電所運転管理責任者の判定に係る規程」改定案の公衆審査における意見対応案について説明があった。本件は、公衆審査（平成 22 年 11 月 15 日（月）～平成 23 年 1 月 14 日（金））期間中に、廃止措置段階の運転業務について 2 件の意見を受けたため、その対応案を前回分科会で審議し、その後の書面投票で可決され、第 39 回原子力規格委員会に上程したが、審議の結果、今回の改定の中で規格案の修正は行わないことが決議された。このことを踏まえ、運転管理検討会から今回の規格改定は公衆審査を行った規格案で発刊を行うことが提案され、以下のコメントについて運転管理検討会で修正したものが正しく反映されていることを条件に、全員一致で可決された。

主な質疑・コメントは以下の通り。

- ・資料 No.22-3-1 の公衆審査意見に対する回答の最終段落は、事業者の運用状況を見て改定するように読めるが、元来は高い志を目指して改定するものなので、理念的に記載し、状況を判断して検討するような記載の方が良いのではないか。

公平性や中立性をもう少し打ち出した表現に見直す。

- ・資料 No.22-3-1 に「技術レベルは同等（係数 1.0）であると評価した」と記載されているが、前回の資料では技術レベルは同等ではなく係数 0.8 だと記載されている。今回、新たに技術レベルは同等（係数 1.0）であると評価することに至った経緯の記載が必要になるのではないか。

経緯をわかりやすく追記する。

- ・原子力規格委員会で「技術レベルは同等（係数 1.0）」であると判断して通過しているものを、公衆審査で意見が出て改めて審議したが、判断がコロコロ変わらないようにするためのルールや手順をもう少し明確にした方がよいと思う。

これについては、プロセスの件なので事務局にお願いする。

(6) 策定規格の制定スケジュール変更

1) 「運転訓練シミュレータに係る規程」制定案

運転管理検討会の幅野主査、坂元委員より、資料 22-4-1～22-4-2 に基づき、「運転訓練シミュレータに係る規程」制定案の現在の作成状況とスケジュール変更について説明があった。

なお、次回の分科会で中間報告することとする。

主な質疑・コメントは以下の通り。

- ・資料 22-4-1 の「2.主要制定事項」に、ANSI への適合を図ることと国内シミュレータの状況等を勘案したものとすることの 2 点が挙げられているが、今回規程化する第 1 の趣旨は国内の利用状況も踏まえてシミュレータに関するガイドを見直すものであり、その上で米国の規格も配慮するものなので、記載順序が逆ではないのか。

いただいたご意見が本来の姿だと思うので、検討会での作成の中で反映する。

(7) 平成 23 年度活動計画（案）の審議

事務局より、資料 22-5 に基づき運転・保守分科会で作成している規格について、平成 23 年度活動計画（案）について説明があった。

シミュレータに係る規程について追記することも含めて、原子力規格委員会に上程することを全員一致で可決された。

主な質疑・コメントは以下の通り。

- ・資料 22-5 JEAC48XX「原子力発電所運転責任者の判定に用いるシミュレータに係る規程(仮称)」の中長期活動計画には、米国基準の変遷を参考にするのみしか記載されていないので、国内シミュレータの状況等を勘案したものとすることも追記する。

(8) 平成 23 年度各分野の規格策定活動（案）の審議

事務局より、資料 22-6 に基づき平成 23 年度の運転・保守分野の規格策定活動（案）について説明があった。

以下のコメントについて反映し、原子力規格委員会に上程することを全員一致で可決された。

主な質疑・コメントは以下の通り。

- ・資料 22-6 の 5.3.7-4 関係箇所の最終段落に 3 行追記しているが、運転・保守分野の規格において日本機械学会の規格等と密接な関係はないのではないかと。

追記した 3 行を削除する。

- ・資料 22-6 の 5.3.7-1 総括に事業者の自主保安の観点と安全規制の観点の両方に貢献することについて記載することは大賛成だが、「自主保安の向上」と「民間基準として規格化し、エンドース等の手続きにより、更なる安全規制の向上にも寄与する」という表現がピンとこない。「自主保安の向上」は「自主保安の充実」に修正する。

「エンドース等の手続きにより、更なる安全規制の向上にも寄与することとしたい。」は「エンドース等の手続きを通じて、安全規制における民間基準の活用にも寄与する。」に修正する。

6. その他

(1) 発刊準備中の規格状況

JEAG4102「原子力発電所の緊急時対策指針」改定案は、11月30日に発刊済。

(2) 次回分科会日程は、平成 23 年 5 月 26 日（木）13:30～とする。

議案は、「運転訓練シミュレータに係る規程」制定案の中間報告を予定。

以上